

小・中学生の食生活についてのアンケート結果概要について

1. 小学校の給食について

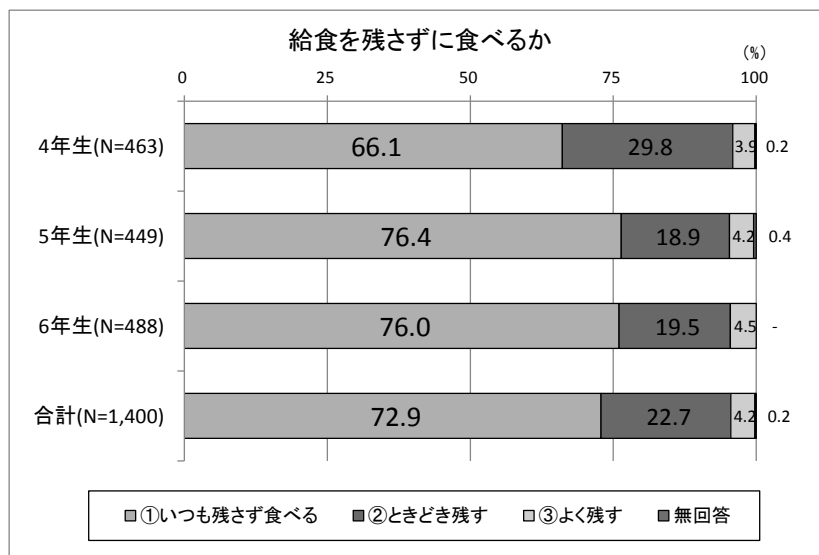
アンケート結果からほとんどの児童は、給食に満足していると思われる。また、給食により嫌いなものも食べ、嫌いなものも徐々に減らそうとする様子もうかがえる。

残さず食べる・嫌いなものを減らしていく・嫌いなものでも食べてみる・食事を楽しむ・たくさんの食材を口にすることができるなど、給食（給食時間に行う食育指導）が大半の児童に好影響を与えていることがわかる。

一方で、嫌いな献立の時や量が多い時などには、給食をときどき残すと答えている児童も2割程度いることから、子どもの実態にあったきめ細やかな個別指導や、必要な食事時間の確保なども課題として捉える必要がある。

【給食を残さずに食べるか】

- 9割以上の児童は、ほとんど残さず食べている。また、ときどき残す児童は、四年生よりも五年生・六年生で減少している。
- 残す理由では、嫌いなものがあるが多数を占めている。しかし、六年生では、量が多いからの割合が上がっている。

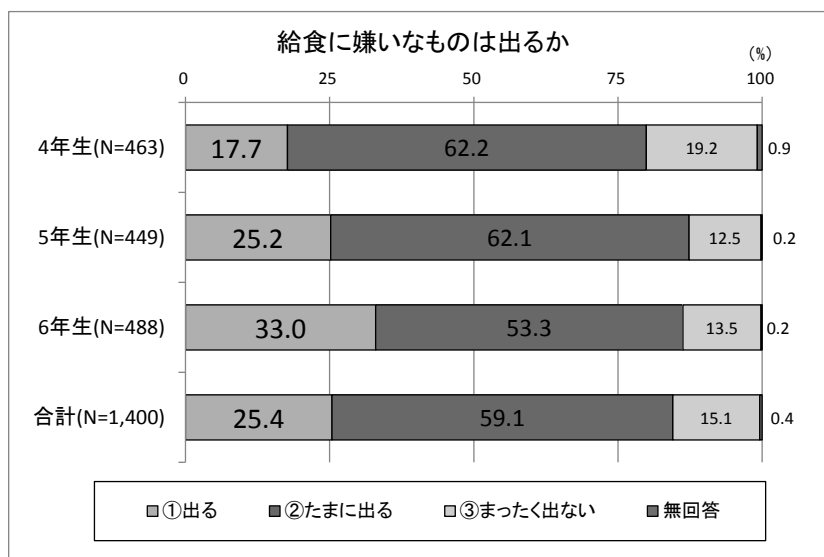


【給食の楽しさ】

- 学年が上がるにつれて比率が低下するものの、3分の2程度の児童は楽しいと答えている。その理由として、「友達や先生と食べるから」とする児童が大半を占めている。

【給食に嫌いな食べ物がた時】

- ▶ 嫌いなものが出る・たまに出るの合計は、各学年とも 8 割を超えており、その割合は、学年が上がるにつれて増える傾向にある。
- ▶ 嫌いなものが出て、約 7 割以上の児童は残さず食べている。少しだけ食べると合わせると、ほとんどの児童が嫌いなものに口をつけている。



2. 中学校の昼食のあり方について

アンケートでは、中学生の大半は主に親がつくる弁当が概ねおいしいと感じており、小学校高学年の児童も含め、5割～7割の児童生徒が中学校での昼食について弁当を希望しているのに対し、保護者の7割～8割は給食を希望する結果となった。

子どもにとっては、現在中学校で実施している家庭から持ってくる弁当に概ね満足していることがうかがえ、家庭の味や保護者が毎日作ってくれる弁当を楽しみにしていることがうかがえる。

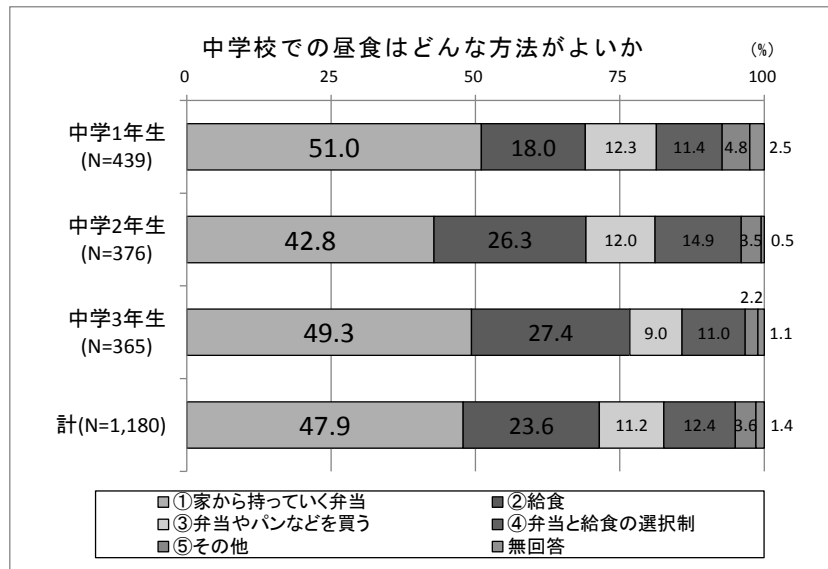
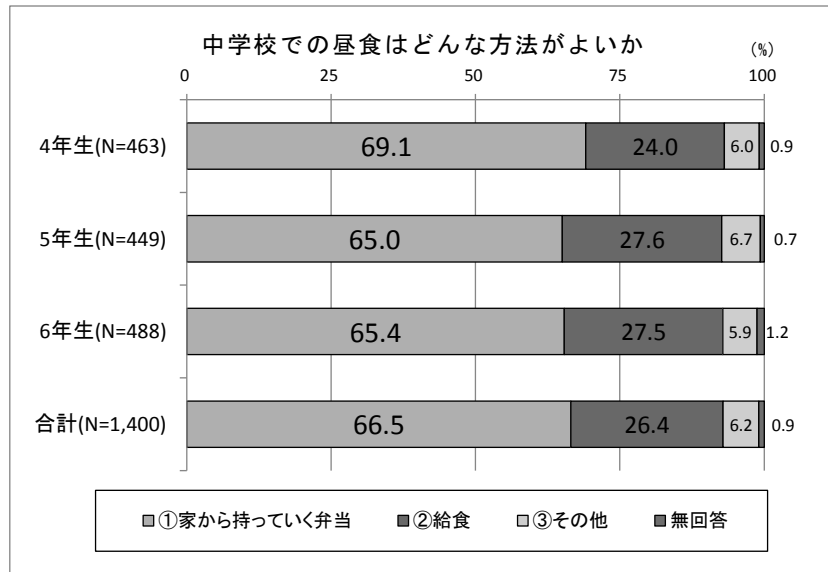
一方、保護者の結果からは、共働きなどの理由で、朝の時間帯は忙しく、弁当を作る時間がなかなかとれないため給食を選択していることが想像できる。また、基本的な親の考え方としては、やはり子供には栄養バランスがとれたものを食べてほしいという願いから、給食を希望されていることがうかがえる。

(小学生)

- 家から持ってくる弁当を希望している児童が約 7 割弱、給食を希望している児童が約 3 割弱を占めている。

(中学生)

- 家から持ってくる弁当を希望している生徒が 4 割～5 割程度を占めている。
- 給食を希望している生徒は、一年生では 2 割弱であるが、学年が上がるにつれて増え、三年生では約 3 割弱となっている。



(保護者)

- 給食と答えた保護者は、小学生高学年で約 8 割、中学生で約 7 割を占めている。

- 弁当と給食の選択制は、小学生高学年では1割に満たない程度であるが、中学生では2割に近づいている。
- 中学校での昼食に弁当を選択した理由として、「子どもが楽しみにしている」、「量や食材を子どもに合わせることができる」と、子どもの嗜好への配慮が主な理由となっている。次いで、「安心感」、「こどものために当然」といった理由が続いている。
- 給食を選択した理由として、「栄養のバランスが良い」が約9割、「弁当を作らなくて良い」と「全員が一緒のものを食べることができる」が約3～4割を占めている。
- 小学生高学年の保護者と比べて中学生の保護者は、「弁当を作らなくて良い」が約1割増え、「全員が一緒のものを食べることができる」が約1割下がっている。

